

R I P R O C K

ユーザーマニュアル

日本語

目次

1. はじめに	1
1.1. 使用用途	1
1.2. 保証	1
1.3. 構造上の重量限界	1
2. 同梱内容	2
3. バイクの組立	3
3.1. 開梱	3
3.2. トルクレンチの使用	6
3.3. ハンドルバーの取り付け	8
3.4. ステムの位置調整	10
3.5. サドルの取り付けと高さの調整	11
3.6. ペダルの取り付け	13
3.7. ブレーキレバーの調整	14
3.8. リフレクター（反射材）の取り付け	14
3.9. タイヤの空気注入	15
3.10. オプションのドロップパーシートポスト	15
4. 安全点検	15
5. RIPROCK の使用と操作	16
5.1. ギアチェンジ	16
5.2. ホイールの取り外しと取り付け	17

Riprock の正しい組立方法を、以下からアクセスいただける動画で説明しています。重要な内容について詳しく解説していますので、ご確認ください。また、組立後の安全点検の実施方法も説明しています。この組立／セットアップガイドのほか、動画も必ずご確認ください。www.specialized.com/setupmyriprock



SPECIALIZED BICYCLE COMPONENTS

15130 Concord Circle, Morgan Hill, CA 95037 (408) 779-6229
0000166841_UM_R2, 06/21

弊社は本文書に対して内容の更新または追加の発行を適時行うことがあります。定期的に www.specialized.com を確認するか、またはカスタマーサービスにお問い合わせいただき、最新の情報を確実に入手してください。

お問い合わせ：info.japan@specialized.com / 046-297-4373

1. はじめに

この組立／セットアップガイドは、Specialized Riprock バイクに特化したものです。組立と安全に関する重要な情報が記載されていますので、お子様が初めて乗車する前に必ずお読みいただき、参照用に保管してください。またスペシャルライズドバイクオーナーズマニュアル（「オーナーズマニュアル」）はすべてお読みいただく必要があります。追加となる重要な一般的な情報やインストラクションが含まれており、オーナーはそれらに従わなければなりません。オーナーズマニュアルをお持ちでない場合は、www.specialized.com から無料でダウンロードできます。あるいは、最寄りのスペシャルライズド正規販売代理店またはカスタマーサービスにご連絡のうえお受け取りください。

このバイクの組立には、基本的な工具の使用経験と、バイクのメンテナンスに関する一般的な知識が必要です。そのような経験がない場合は、スペシャルライズド正規販売代理店が組み立てる必要があります。

このユーザーマニュアルには、重要な内容をお伝えするさまざまなシンボルマークや警告サインが使用されています。それらの説明は以下のとおりです。

	警告！ このシンボルマークと表記の組み合わせは、回避しないと重大な事故や死亡事故を引き起こす可能性のある、潜在的に有害な状況を示しています。警告の多くには、「制御を失って転倒する可能性があります」などの文言が使用されています。いかなる転倒も重大な事故または死亡につながる可能性があるため、傷害や死亡の可能性が常に繰り返し言及されているわけではないことに留意してください。
	注意： 安全を喚起するこのシンボルマークと「注意」という表記の組み合わせは、回避しないと軽傷または中程度の傷害を引き起こす可能性のある、潜在的に有害な状況を示しています。
	安全を喚起するシンボルマークを伴わない「注意」の表記だけが表示されている場合は、回避しないとバイクに深刻な損傷が生じるか、または保証が無効になる可能性のある状況を示しています。
	このシンボルマークは、特に重要な情報であることを示しています。

1.1. 使用用途

Riprock は、お子様のみが使用することを意図して、設計およびテストされています（コンディション 6）。

 6 子供による 使用のみ	コンディショ ン 6	お子様が乗車するように設計されたバイクです。保護者が常に付き添い、監視することが求められています。自動車の往来がある場所、傾斜地、カーブ、階段、排水口などの障害物や危険物がある場所、または崖やプールに近い場所での乗車は避けてください。
--	---------------	---

1.2. 保証

バイクに同封された保証規定を参照するか、弊社ウェブサイト（www.specialized.com）でご確認願います。

保証規定は、スペシャルライズド正規販売代理店でご入手いただけます。

1.3. 構造上の重量限界

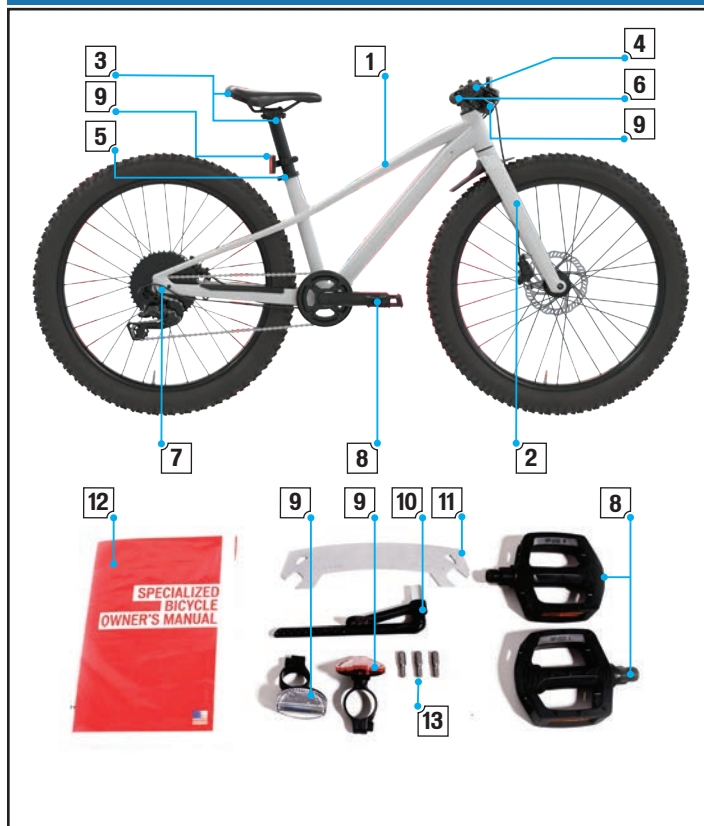
モデル	積載重量制限 (ポンド／kg)	積載物の重量を含めた構造上の 重量限界 (ポンド／kg)
20 / 24	30 / 14	220 / 100

構造上の重量限界：バイクが構造的に許容できるように設計およびテストされている最大重量限界（ライダーと積載物の合計重量）です。

積載重量制限：バイクが構造的に許容できるように設計およびテストされている最大積載重量です。

	重要情報： 使用用途およびフレームやコンポーネントの構造上の重量限界に関する詳細については、オーナーズマニュアルを参照してください。
---	---

2. 同梱内容



#	項目	トルク値		
		工具のサイズ	in-lbf	Nm
1	フレーム			
2	フォーク			
3	シートポスト／サドル			
4	ハンドルバー			
5	シートカラー	4 mm 六角レンチ	53-61	6-7
6	ステム	4 mm 六角レンチ	46	5.2
7	フロント／リアホイール	6 mm 六角レンチ	88.5	10
8	ペダル	15 mm レンチ	22.5° 回転	
9	リフレクター(反射材)	プラスドライバー (同梱されていません)		
10	トルクレンチ	4 / 5 / 6 mm の六角レンチ		
11	フラットレンチ	17 mm / 15 mm のレンチ		
12	マニュアル			
13	六角ビット	4、5、6 mm		
14	フェンダー	4 mm 六角レンチ	17.7	2

3. バイクの組立



警告！誤飲による窒息の危険性 - 梱包内容には小さな部品が含まれている場合があります。3歳未満のお子様には適していません。Riprock バイクは大人が組み立てる必要があります。以下の手順に従い、乗車前に安全点検を行ってください。

3.1. 開梱

3.1

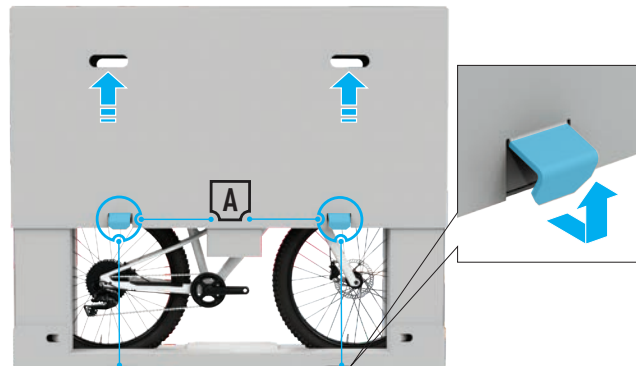


図 3.1

- 箱の底からセキュリティテープを剥がし、固定タブを引き出します (A)。
- 上箱を引き上げ、底部の梱包材から抜き取ります。

3.2

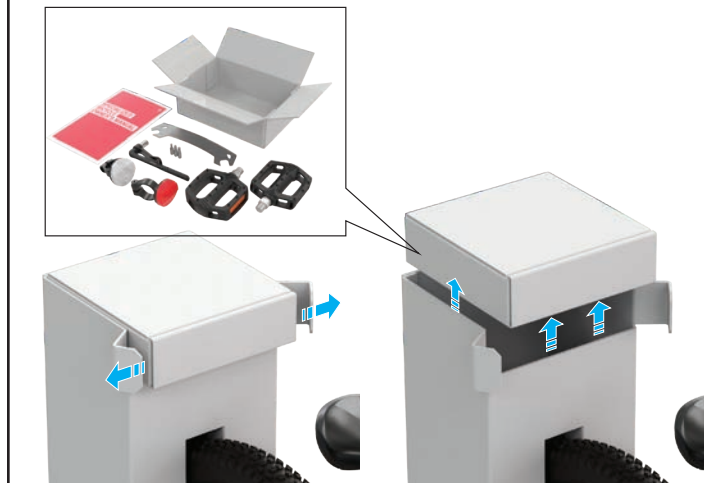


図 3.2

- 後部の梱包材の上部にあるタブを引き出し、小箱を取り出します。
- 小箱を開封し、マニュアル、ペダル、リフレクター（反射材）、および組立に必要な工具をすべて取り出します。

3.3



図 3.3

- 梱包固定材を引き上げて取り外します。

3.4

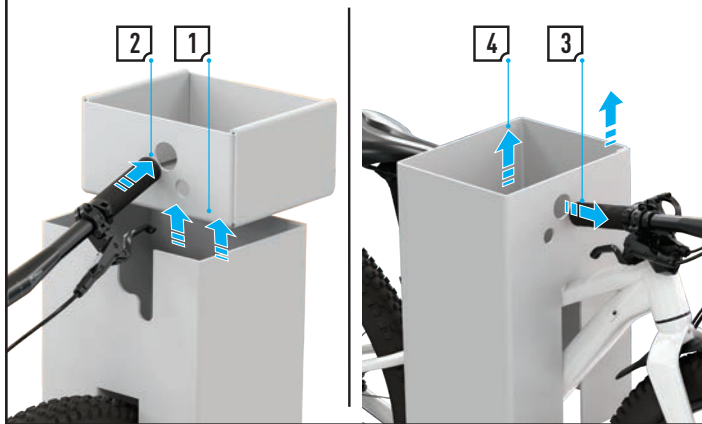


図 3.4

- 前部の梱包材については、ハンドルバーと内箱を両方とも引き上げ (1)、内箱をハンドルバーから引き抜きます (2)。
- ハンドルバーを前方に引いて、中央の梱包材から抜き取り (3)、中央の梱包材を引き上げてバイクから外します (4)。

3.5

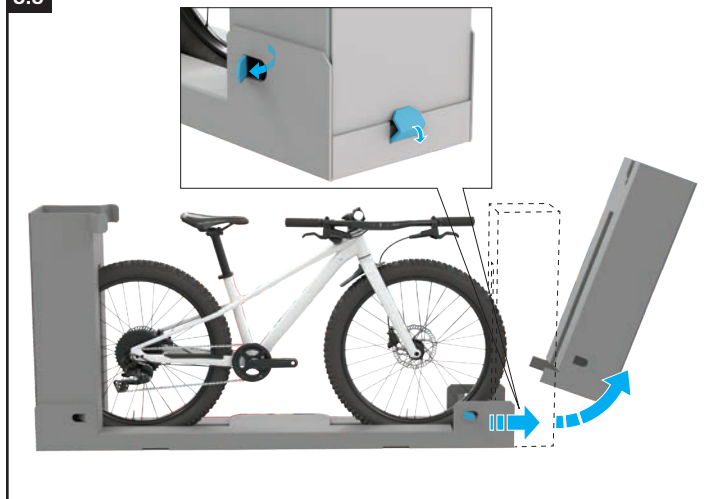


図 3.5

- 前部の梱包材の底部にあるタブを引き出します。梱包材を外側にスライドさせて取り外します。
- 残った梱包材は組立中にバイクスタンドの役割を果たします。



リアホイールを支えている後部の梱包材は取り外さないでください。ハンドルバーを組み立てている間、バイクを直立に保持してくれます。



梱包はモデルごとに異なります。また梱包材に設けられた固定タブの数も異なる場合があります。

3.6



図 3.6

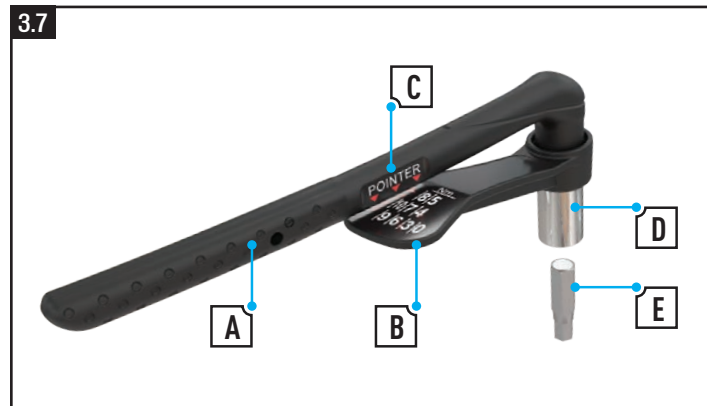
- 組立が完了したら、バイクを梱包材から取り外します。
- 後部の梱包材を押さえながら、バイクを前方に進ませて底部の梱包材から取り外します。



リサイクル：箱と梱包材はすべてリサイクルしてください。

3.2. トルクレンチの使用

Riprock には専用のトルクレンチが同梱されています。指示された箇所のボルトを締める際に使用してください。トルクレンチは、すべてのボルトをトルク基準値で確実に締められるよう、組立中に正しく使用することが重要です。



項目	項目
A レバー	B トルクゲージ (0 - 10 Nm)
C トルクポインター	D レンチソケット
E 六角ビット (4、5、6 MM)	

i この後のセクションで、同梱されているトルクレンチの使用方法を説明します。説明を読んでもトルクレンチの使用方法に確信が持てない場合は、スペシャライズド正規販売代理店にお問い合わせください。



図 3.8

一般的な情報：

- トルクレンチには、4 mm、5 mm、6 mm の 3 種類の六角ビットが同梱されています。
- トルクレンチを使用する際は、どの六角ビットが必要かを必ず確かめ、正しい六角ビットをトルクレンチのソケットに挿入します (A)。
- トルクレンチのレバーアームに力がかかっていない場合は、レバーアームの右端が、トルクゲージ (B) に表示されている「0」の左側の短い白線に揃っています。

パーツ	ポジション	工具	トルク値	注
ステム	フェースプレートボルト	4 mm 六角レンチ	5.2 Nm	付属のレンチで締める
ステム	ステアラールボルト	4 mm 六角レンチ	5.2 Nm	締め付け済み

シートポスト	シートポストクランプ	4 mm 六角レンチ	6 - 7 Nm	付属のレンチで締める
ホイール	スルーアクスル	6 mm 六角レンチ	10 Nm	締め付け済み



図 3.9

- トルクレンチをボルトヘッド (A) に挿入し、レバーを時計方向に回します。テンションを感じ、レバーアームが動くようになるまで回してください。
- ボルトに正しいトルク値を適用し、トルクポインターがトルクゲージに表示されている適切な数値の線に揃うまで、レバーを回します。線に揃ったら、締め付けるのをやめてトルクレンチをボルトから取り外します (例えば、トルク基準値が 6 Nm の場合、トルクポインターが「6」の左側にある白い線に揃うまで回します)。

警告！ バイクの留め具（ナット、ボルト、ビス）を適正な締め付けトルクで締め付けることは、安全のために非常に重要です。締め付けトルクが弱すぎると、留め具がしっかりと固定されない可能性があります。締め付けトルクが強すぎると、ねじ部がつぶれたり、留め具が伸びたり変形したり、あるいは割れたりすることがあります。

不適切な締め付けトルクを適用すると、コンポーネントに不具合が生じ、制御を失って転倒の原因となる可能性があります。トルク基準値が指定されている場所は、各ボルトを必ずその基準値で締めてください。初めての乗車後、そしてその後も継続的に、すべてのボルトの締め付け具合を再確認し、コンポーネントがしっかりと固定されていることを確認してください。

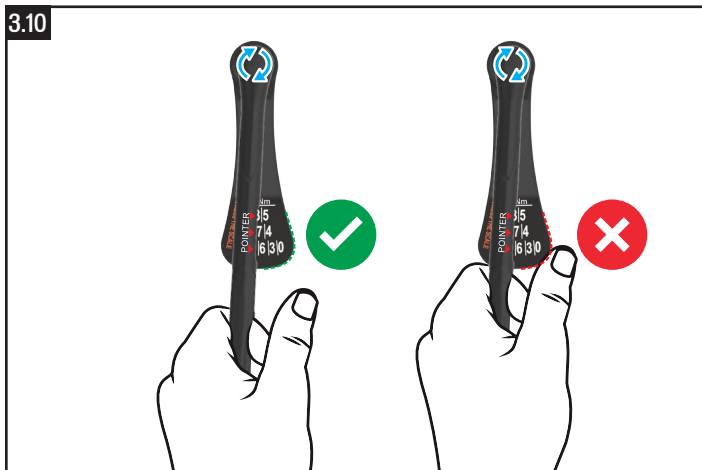


図 3.10

- レンチを使用しているときに、指でトルクゲージに触れないように注意してください。誤った読み取り値になってしまいます。

3.3. ハンドルバーの取り付け

梱包された状態で、ステムがバイクに取り付けられています。ハンドルバーアセンブリのみをステムに取り付ける必要があります。

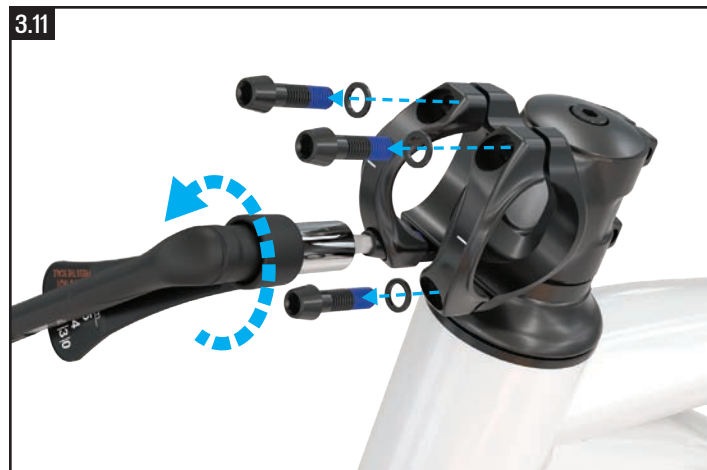


図 3.11

- フェースプレートのボルトとワッシャーを緩めて取り外し、ステムからステムフェースプレートを2つとも取り外します。

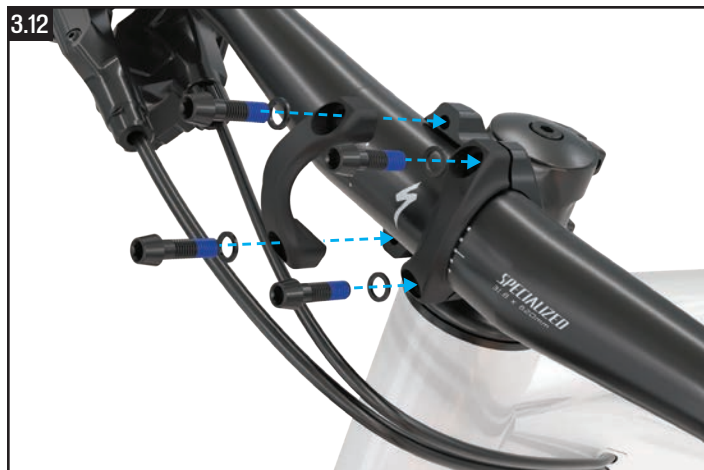


図 3.12

- ハンドルバーをステムに位置させたら、ステムフェースプレートの1つをハンドルバーに位置させ、ステムフェースプレートとステムの穴を揃えます。
- 各ボルトにワッシャーを付け、ボルトをフェースプレートに差し込んでステム本体へと回し入れます。各ボルトを均等に指で締め、ステム本体とフェースプレートの間の上下の隙間がほぼ同じになるようにします。
- もう1つのステムフェースプレートも同じように取り付けます。



図 3.13

- ハンドルバーの位置をステムに揃うように調整します。この際、Sのロゴがステムフェースプレートピースとハンドルバーの線の間中央に位置し、なおかつステムフェースプレートピースの線に揃うようにしてください。

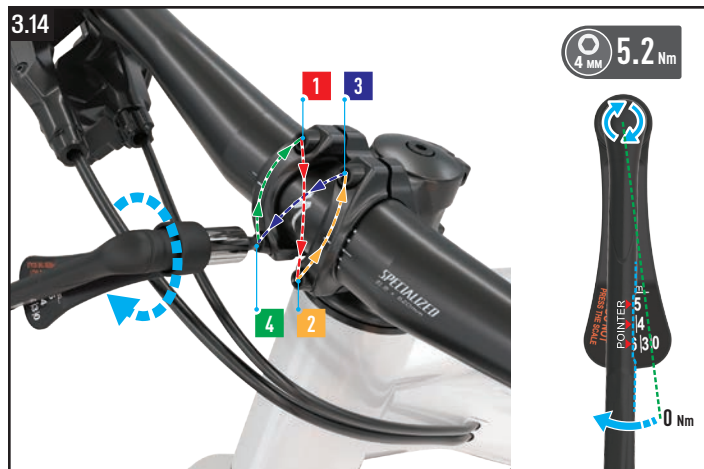


図 3.14

- 付属のトルクレンチと4mmの六角ビットを使用して、各フェースプレートボルトを図のように対角線のパターンで順番に約半回転させます。さらにこの順番で、すべてのボルトを5.2 Nmのトルク値で締めます。

3.4. ステムの位置調整

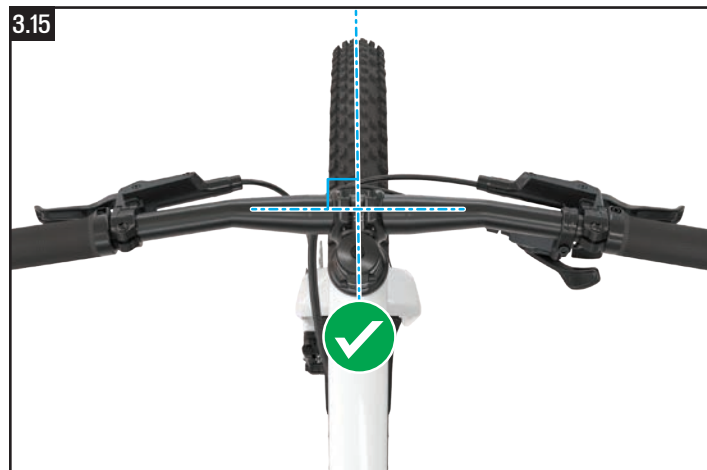


図 3.15

- 組立が完了したら、ステムとハンドルバーがフロントホイールの中心線に揃っていることを確認します。
- ステムについては、出荷前に位置を揃えて締め付けられているため、再度位置を揃える必要はありません。万が一、ステムの位置を調整し直す必要がある場合は、以下の手順に従ってください。ステムの位置の再調整が不要な場合は、シートポストとサドルのセクションに進んでください。



図 3.16

- ステムの位置を揃えるには、付属のレンチを使用して、ステムの後ろ側にあるボルトを緩め、ステムとハンドルバーの角度をフロントホイールの線に揃うように調整します。
- 位置が揃ったら、付属のトルクレンチと 4 mm の六角ビットを使用して、リアステムのボルトを 5.2 Nm のトルク値で締め直します。

3.5. サドルの取り付けと高さの調整

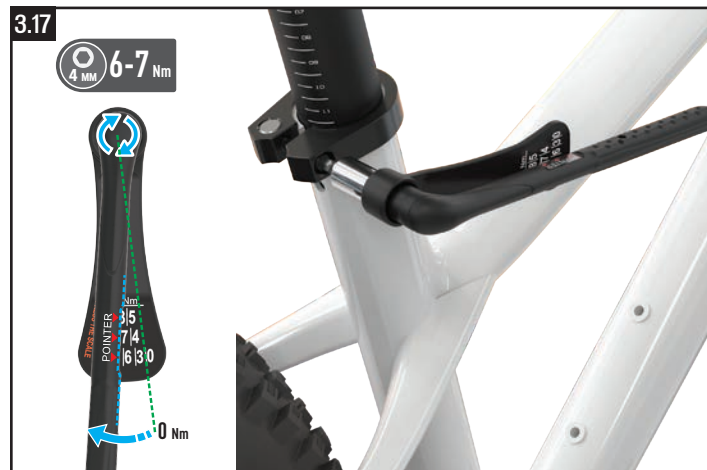


図 3.17

- 付属のトルクレンチと 4 mm の六角ビットを使用して、シートポストクランプを緩めます。
- まず最初に、お子様に適切だと思われる高さにサドルの位置を調節します。
- 付属のトルクレンチと 4 mm の六角ビットを使用して、シートカラーボルトを 6 ～ 7 Nm のトルク値で締めます。

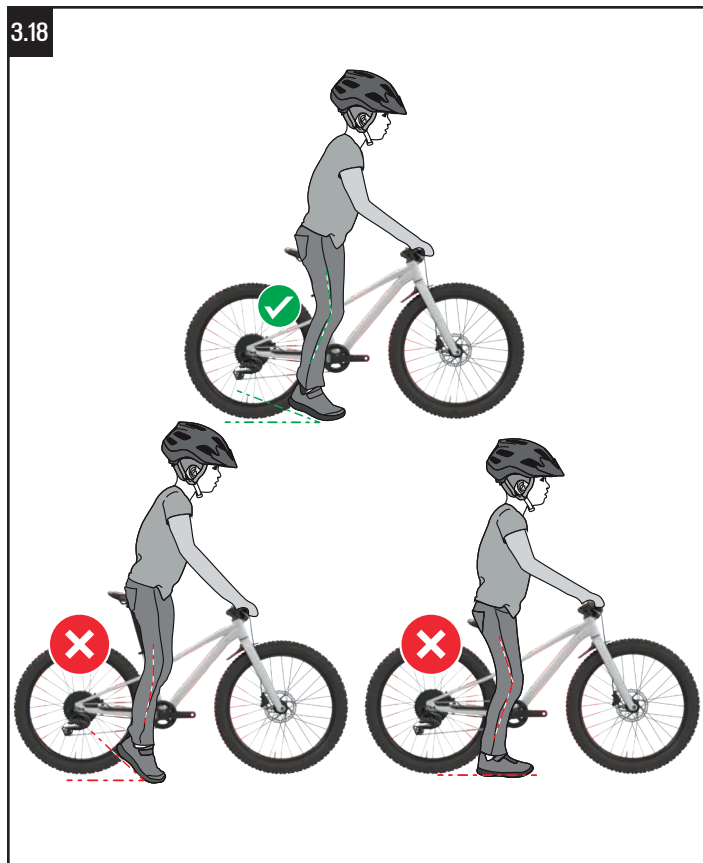


図 3.18

- お子様をサドルに座らせて、サドルの高さを確認します。
- 理想的なサドルの位置は、お子様が膝を少し曲げた状態で、足の指の付け根が地面につく高さです。

3.19

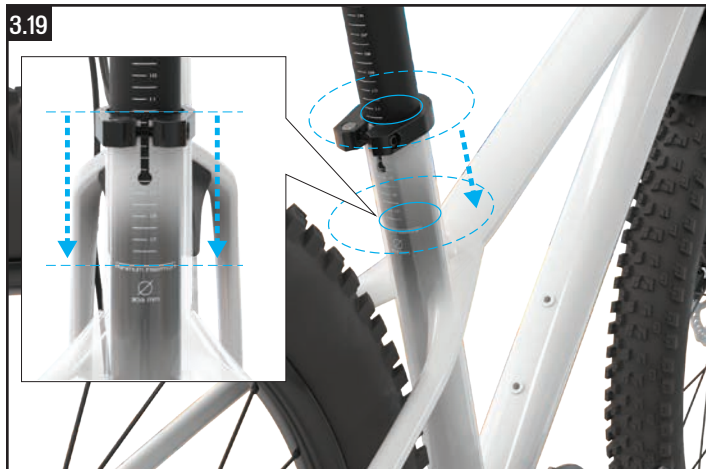


図 3.19

- サドルの高さを調整する際は、シートポストの最小挿入長のラインが、シートポストクランプの上側に見えていないことを確認してください。



警告！サドルの高さを調節する際は、最小挿入長のラインがシートポストクランプの上側に見えなくなるまで、シートポストをフレーム内に挿入しなければなりません。

このガイダンスに従わないと、フレームおよびシートポストの損傷を引き起こし、制御を失って転倒する可能性があります。



サドルの位置が高すぎるか、または低すぎると、バイクの操作に支障をきたすことがあります。お子様に最適な位置になるまで試し、サドルの高さを調節してください。

- サドルの高さが好みの位置に決まったら、サドルをバイクの中心線に揃え、付属のトルクレンチと 4 mm 六角ビットを使用して、シートカラーボルトを 6 ～ 7 Nm のトルク値で締めます。

3.20

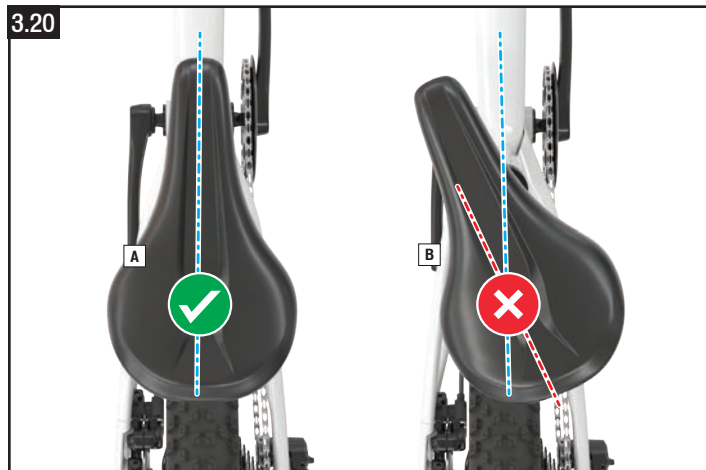


図 3.20

- 図は、正しい位置に揃ったサドル (A) と、不適切な位置にあるサドル (B) を示しています。

3.6. ペダルの取り付け

ペダルは、小箱の中に入っているフラットレンチを使用して取り付ける必要があります。ペダルの取り付けにはトルクレンチが使用できないため、以下に説明するガイドラインを用いて、ペダルを必ず正しいトルク基準値で締め付けてください。

フラットレンチの使用

- フラットレンチを使用する際は、まずペダルボルトをクランク内に緩めに挿入し、支障なく回転する状態にします。
- 次にペダルボルトを、右ペダルは時計方向に、左ペダルは反時計方向に、テンションを感じるまで回します。
- 少しでもテンションが感じられるようになったら、その位置からペダルボルトを指定されたように回して締め付けます。正しいテンションが得られていれば、手に見てわかるほどの跡がつくはずです。

ペダルの取り付け

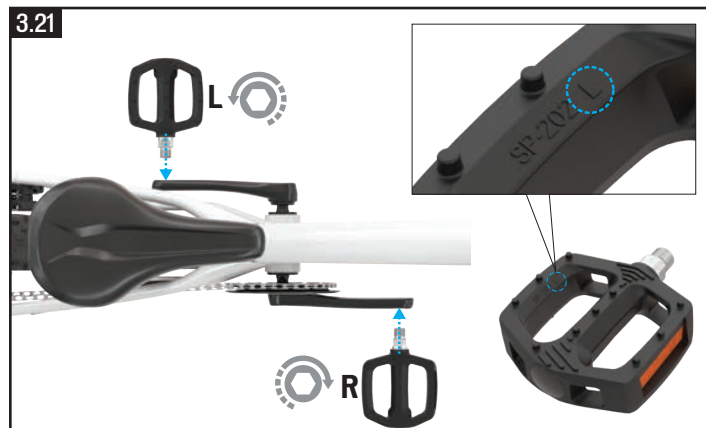


図 3.21

- ペダルを梱包から取り出し、ペダルの表面に表示されている「L」と「R」を確認して左右を区別します。「L」ペダルは左クランクに、「R」ペダルは右クランクに取り付けてください。
- Riprock のペダルは、左用と右用に区別されており、ペダルのねじ部の切り込みがそれぞれ逆になっています。したがってペダルを締め付けるには、左右両方とも、ねじ部を上から下へとバイクの前方向に向けて回すことになります。

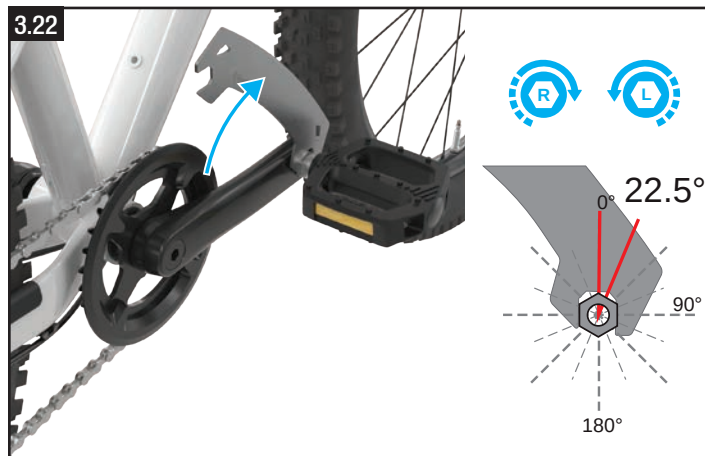


図 3.22

- 「R」ペダルを右クランクの切り込み穴に挿入し、いづらかテンションが感じられるまでペダルを回転させます。
- テンションが感じられるようになったら、15 mm のレンチを使用して、図に示したようにペダルボルトを（時計方向に）22.5°回転させて締め付けます。
- 同様に、「L」ペダルを左クランクアームに取り付けます（反時計方向に回転させます）。



ペダルのねじ部は、乗車時に自然に締め付けられます。

3.7. ブレーキレバーの調整

Riprock のブレーキレバーは、お子様の手が小さかったり、またはブレーキレバーを握るのが難しい場合に、リーチを調整できます。

3.23

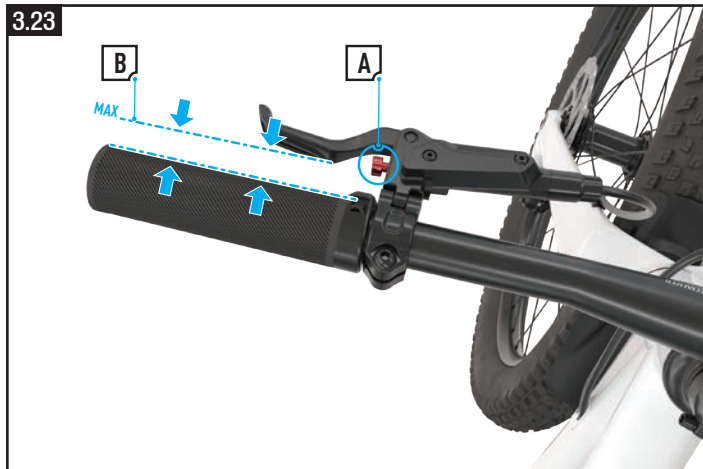


図 3.23

- ハンドブレーキは、出荷前にすでに調整がなされています。必要であれば、ブレーキレバーのリーチは、グリップとレバーの間にあるサムホイールを回して調整できます (A)。
- レバーを調整する際は、ブレーキをかけたときに、レバーがグリップに触れないことを確認してください (B)。

- 追加の調整が必要な場合は、スペシャライズド正規販売代理店にお問い合わせください。



警告：ブレーキを正しく調整することは安全のために極めて重要です。ブレーキには多面的に調整する性質があるため、正しい調節を行うことが難しい場合もあります。ディスクブレーキの調整方法がよくわからない場合は、スペシャライズド正規販売代理店で設定と調整を行う必要があります。

3.8. リフレクター（反射材）の取り付け

3.24

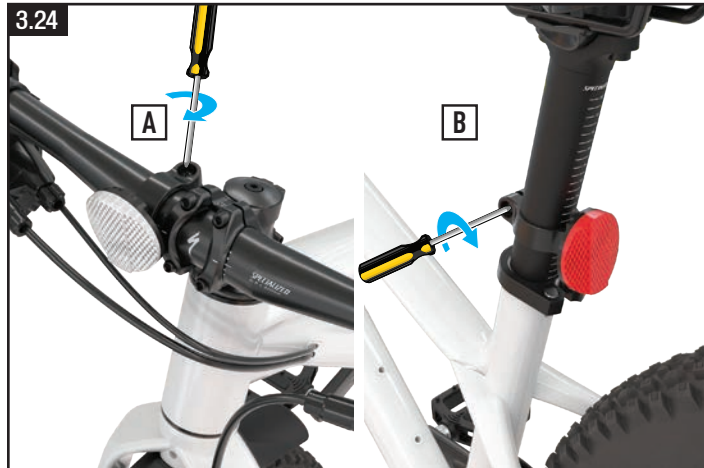


図 3.24

- プラスドライバーを使用して、フロント（白）リフレクターをハンドルバー (A) に、リア（赤）リフレクターをシートポスト (B) にそれぞれ取り付けます。

3.9. タイヤの空気注入

タイヤには必ず空気を入れ、正確な圧力ゲージ付きのポンプを使用して定期的に空気を入れる必要があります。詳細は、スペシャライズドバイクオーナーズマニュアルのタイヤとチューブのセクションを参照してください。



警告！ タイヤに空気を注入する際は、サイドウォールに表示されている最大空気圧を決して超えないように注意してください。推奨最大空気圧を超えると、タイヤが破裂してリムから外れ、バイクが損傷してライダーまたは近くの人への傷害事故につながる可能性があります。

3.10. オプションのドロップパーシートポスト

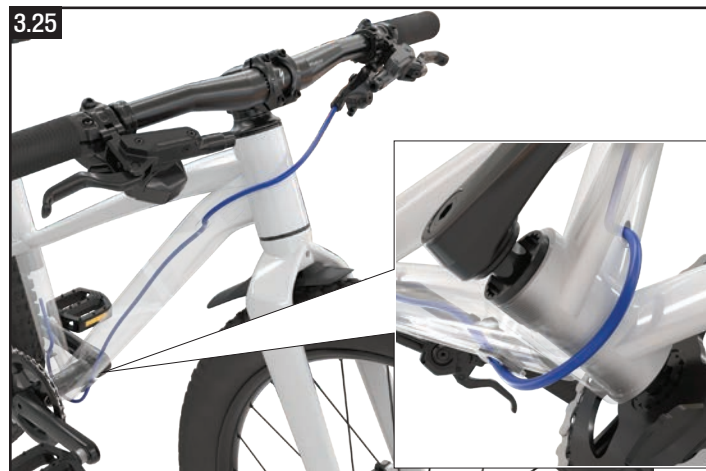


図 3.25

- Riprock は、オプションのドロップパーシートポストを取り付けられるように設計されています。

- ドロップパーシートポストハウジングは、フレームのドライブ側にあるダウンチューブ上部に位置したインターナルケーブルルーティング (ICR) ガイド内を通り、ボトムブラケット (BB) 前部にあるダウンチューブ下部の ICR ガイドから出るようにルーティングされています。
- ハウジングの取り回しは、BB の下側でフレームの外側へと出て、BB 上部のシートチューブ裏側にある ICR ガイドへと挿入されています。



注意：ドロップパーシートポストの取り付けには、Specialized 用バイク工具の取り扱い経験と、ドロップパーシートポストの取り付けに関する知識が必要になります。そのような経験がない場合は、スペシャライズド正規販売代理店で取り付ける必要があります。

4. 安全点検



警告！ 初めて乗車する前と毎回の乗車の前には、以下の安全点検とバイクオーナーズマニュアルで説明されている安全点検を必ず行い、その後も定期的にバイクの安全性を確認してください。この警告に従わなかった場合は、重傷事故につながる可能性があります。

- 1：ナット、ボルト、ビス、その他の留め具：シートポスト、ステム、ハンドルバー、ホイールが正しく締め付けられていることを確認します。ハンドルバー、ステム、シートポストの締め付け具合は、足にバイクを挟み、ハンドルバーとサドルをある程度の力を入れてひねったり、前後に押したり引いたりすることで確認できます。この際、ハンドルバーとサドルは動いてはなりません。いずれかのコンポーネントが動いてしまう場合は、パーツの位置を再度揃え、ボルトをより強く締め付けて、もう一度試します。動きがなくなるまで繰り返してください。バイクに使用されているすべてのボルトを定期的に確認し、しっかりと締め付けられていることを確かめてください。
- 2：シートポスト：サドルの高さが適切に設定され、シートポストクランプボルトが正しく締め付けられていることを確認してください。
- 3：タイヤとホイール：ホイールがスムーズに回転し、ぐらついていないことを確認してください。ホイールが、フレームとフォークの中央に位置していることを確認してください。ホイールがぐらついていた

り、中央に位置していない場合は、スペシャライズド正規販売代理店にお問い合わせください。

- 4：タイヤ空気圧：タイヤには必ず空気を入れ、正確な圧力ゲージ付きのポンプを使用して定期的に空気を入れる必要があります。詳細は、バイクに付属しているスペシャライズドバイクオーナーズマニュアルのタイヤとチューブのセクションを参照してください。
- 5：ヘッドセット：ヘッドセットとステムは、あらかじめ調整と設定がなされています。ヘッドセットが緩かったりステムの位置が正しくない場合は、スペシャライズド正規販売代理店にお問い合わせください。
- 6：ブレーキ：ブレーキは、あらかじめ調整と設定がなされています。ブレーキローターまたはキャリパーが正しく調整されていない場合は、スペシャライズド正規販売代理店にお問い合わせください。ブレーキパッドは定期的に点検し、摩耗がないことを確認してください。ブレーキパッドを交換する必要がある場合、ブレーキパッドを交換した経験がない場合は、スペシャライズド正規販売代理店に交換を依頼してください。
- 7：ハンドルバー：ステムとハンドルバーが正しい位置に揃っており、ボルトが正しく締め付けられていることを確認してください。

定期的にバイクを点検し、バイクのすべてのコンポーネントに損傷がないことを確認してください。摩耗や損傷のあるコンポーネントは交換するか、またはスペシャライズド正規販売代理店に交換を依頼してください。

5. RIPROCK の使用と操作

5.1. ギアチェンジ

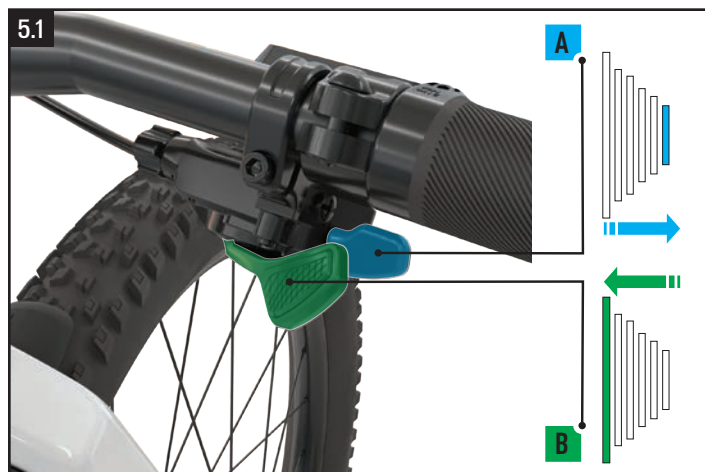


図 5.1

- Riprock にはハンドルバーの右側にギアシフターが装着されています。このギアシフターは、2つのレバーで高いギアまたは低いギアへと変速を行います。
- 上のレバーは、バイクをより低いギアへとシフトさせ (A)、下のレバーはバイクをより高いギアへとシフトさせます (B)。



警告：交通と障害物のない管理の行き届いた場所で、お子様にギアの操作に慣れる練習をさせてください。

5.2. ホイールの取り外しと取り付け

Riprock には、ホイールをバイクに取り付けるためのフロントおよびリアスルーアクスルが装着されています。以下のステップでは、メンテナンスや修理の際に必要な、ホイールの取り外しと交換に関する手順を説明します。



警告：ホイールを正しく取り付けることは、お子様の安全のために極めて重要です。ホイールの取り外し（または取り付け）に慣れていない場合は、お近くのスペシャライズド正規販売代理店にお問い合わせください。



図 5.2

フロントホイールの取り外し方法

- 付属のトルクレンチと 6 mm の六角ビットを使用して、フロントホイールのスルーアクスルを緩めて取り外します。

- ホイールを下にずらしてフォークから外します。

フロントホイールの取り付け方法

- ホイールを持ち上げてフォークのドロップアウトに挿入します。このとき、ディスクブレーキローターをブレーキキャリパー内に位置させます。
- フォークのドロップアウトの穴にスルーアクスルを挿入します。付属のトルクレンチと 6 mm の六角ビットを使用して、スルーアクスルを 10 Nm のトルク値で締めます。



バイクの前の端を持って浮かせ、フロントホイールを回します。ホイールがフォーククラウン内の中央に位置し、スムーズに回転し、ぐらつきがないことを確認します。ホイールぐらついたり、中央に位置していない場合は、スペシャライズド正規販売代理店にお問い合わせください。

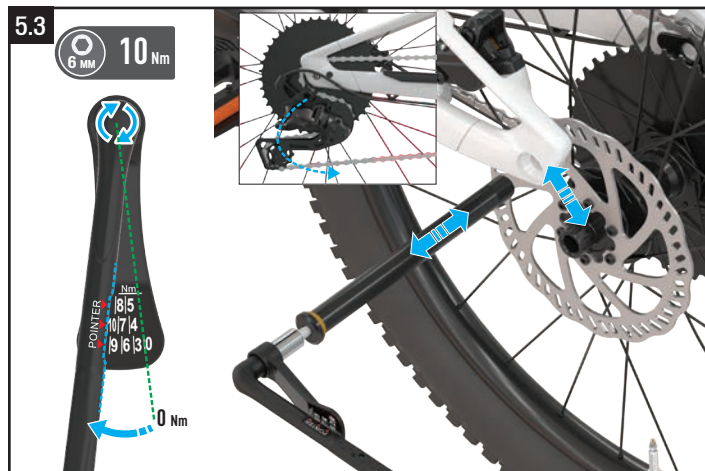


図 5.3

リアホイールの取り外し方法

- 付属のトルクレンチと 6 mm の六角ビットを使用して、リアホイールのスルーアクスルを緩めて取り外します。
- ディレラーを前に回転させてチェーンの張りを緩めます。
- ホイールを下にずらしてドロップアウトから外します。

リアホイールの取り付け方法

- ディレラーを前に回転させてチェーンの張りを緩めます。
- ホイールを持ち上げてリアドロップアウトに挿入します。このとき、ディスクブレーキローターをブレーキキャリパー内に位置させます。
- 付属のトルクレンチと 6 mm の六角ビットを使用してスルーアクスルをドロップアウトの穴に挿入し、スルーアクスルを 10 Nm のトルク値で締めます。

ブレーキパッドスペーサー

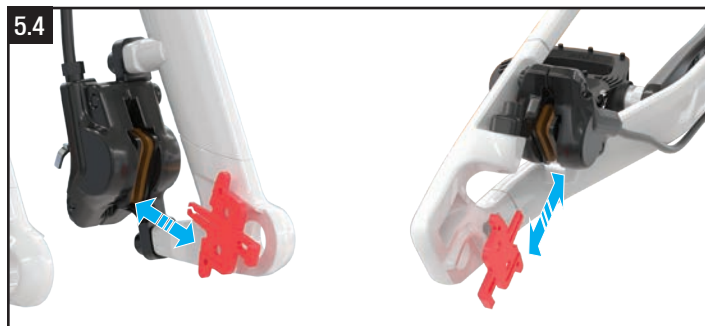


図 5.4



重要情報：バイクからホイールが取り外されているときは、ブレーキレバーを引かないでください。キャリパーが閉じてしまうため、ホイールを取り付ける際にブレーキディスクをキャリパー内に挿入するのが困難になってしまいます。バイクからホイールが取り外されているときは、ブレーキパッドの間にパッドスペーサーを挿入して、キャリパーが閉じないようにしてください。スペーサーは小箱の中に別に入れてられています。ブレーキパッドが閉じてしまったら、パッドスペーサーをキャリパー内に滑り込ませてパッドを押し出すと、キャリパーを再び開くことができます。

SPECIALIZED BICYCLE COMPONENTS

15130 Concord Circle, Morgan Hill, CA 95037 (408) 779-6229